

和光病院 だより VOL.14



撮影者
紫藤 恵美

和光病院の使命

「私たちの使命は、加齢に伴う精神と身体の病気で苦しむ人に、必要な医療サービスとケアを提供することです。」
私たちは、誠実さと、公正さと、謙虚さとを、行動の規範とします。

- ・自分たちの使命を誠実に遂行すること
- ・患者さんを経済力や、社会的立場で差別することなく、公正であること
- ・謙虚な姿勢で仕事に取り組み、職業的能力の向上に努力すること



院長代行の挨拶



副院長 浅見 勉

副院長（院長代行）の浅見勉と申します。内科を専門としており、和光病院では主に、入院患者さんの身体面の対応をしております。

梅雨入りとなり不順な天候が続く鬱陶しい日々が続いております。健康管理がなかなか難しく、体調を崩すことも多いかと推察されます。加えて多発するなかなか理解しがたい事件や異常気象などもあり、すっきりした気分になれない毎日です。どうぞ、ご自愛ください。

さて、私が縁あって和光病院に勤め始めてから、7年近くが経過いたします。それ以前は九州にて主に救急病院に勤務しておりました。前の病院では、急患で入院される方々は、健康を回復されるか否かの、多くは2つの転帰しかなく、それが当然と考えて過ごしてきました。ですから、全く病院の性格の異なる、和光病院に勤め始めて、色々な点で戸惑うことが多い毎日でした。当院では、『拘束しない、隔離を行わない』ことを、開院当初より最大の理念として実践しているという話を、看護師長から聞いても、私には「そうなんです」といった思いしか浮かばないのが当時の実感でした。

その後、斎藤先生が院長として着任され、当時の理念を実際の診療活動の中で誠実に取り組まれ、病院全体でそれを具体化してゆくことの困難さを目の当たりにしました。しかし、着実に改善が進んでゆく実感を得ることも出来ました。それ以外にも、病院の外來機能の充実、直接的に病院に関わる地域の方の協力や、さらに広く地域住民に積極的にかかわりを持つことなど、多くの点で確実に開かれた病院として充実してきました。

本年4月、和光病院にとって大変残念なことではありましたが、長年、明確な方針をもって認知症診療に取り組んでこられ、当院の医療水準の向上に多大な貢献をなされた斎藤先生が、さらに大きな仕事をされるべく転出されました。現在でも顧問という立場から、病院運営にご協力を戴いている次第です。

これからも指導をお願いすると共に、病院自体としても、数年にわたり積み上げてきた認知症治療、ケアに関しての理念を更に具体化し、認知症を発症した方や、ご家族の方々が安心して、納得できる状況で生活を続けられるよう努めて行きたいと思っております。

古人いわく

道をあらたむる無くんば、

孝と謂うべし

の言葉を肝に銘じ、ここ数年来、斎藤先生のご指導のもと医師、看護師、介護士およびすべての病院関係者が関わる治療ケアについて、すべての経験、知識を生

かし、新たな知識、手技などは十分に把握した上で応用しながらも、従来の基本的な考えである、『拘束をしない、隔離をしない、すべての人に公平に対応する』また、『過剰診療を避けつつ過少診療にもならないように努める』などの方針を、堅守し続けたいと思っております。

病院経営から見るとなかなか両立が困難なことなのですが、激しい周辺症状を示す方の受け入れから、症状的には安定しながらも長期療養をし、最終的には終末期を迎えられる方を見続けて行くことも必要があると思われます。しかしながら、当院の人的要素、技術面、医療設備などを考慮し、認知症の病期、周辺症状の程度、合併症の有無などを判断して最もよい療養環境を見極めて提供してゆくことが大切と思われます。

これらのことは、医療・ケアを提供する側の努力も必要ですが、是非とも患者さん、ご家族の皆様のご協力を得て、医療、療養環境をより一層よいものにしたと思います。こうした毎日を積み重ねることにより、経営基盤も安定化し、永続的に質の高いサービスを提供し続けることが出来ると確信しております。

夏以降は、新院長を迎え、さらに充実した医療を展開できるように、非力ではありますが、努力したいと思っております。

今後とも、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

思いをつないで



看護部長 藤森 美栄

和光病院の中庭と屋上の庭園には、様々な花や木が植えられており、季節毎にきれいな花を咲かせ楽しませてくれます。時々、ご家族やスタッフと一緒に庭を散歩される患者さんの姿を見かけますが、心休まる一時を過ごされているのではないかと微笑ましく思うことがあります。中庭の花の中には、前院長の齋藤先生が自ら植えられた花も数多くあり、癒しの空間になっています。

齋藤院長は、すでにご案内のとおり今年の3月末で辞任され、10月に新院長をお迎えする予定になっております。齋藤先生には5年半に渡り、認知症医療とケアの質の向上のために様々な指導をいただきました。どんな困難な状況においても、最善の医療とケアが提供できるように、ゆるぎない信念を持って指導して下さいました。認知症の患者さんやご家族に対する姿勢はいつも温かく謙虚で、スタッフはその姿勢からも多くの事を学びました。認知症医療に対する齋藤先生の思いをつなぎ、中庭に咲く花と同じように、患者さんとご家族を支えていけるような病院として、さらに発展するよう



に努力していきたいと考えております。さて、新年度がスタートして3カ月が経ちました。

看護部では、4月に二つの病棟の師長が交代し、新任の師長と看護主任が1名ずつ誕生しました。病棟では、それぞれに新鮮な視点でケアや業務を見直しながら、日々、前向きな姿勢で取り組んでいます。

また、新入職として6人の看護師を迎えました。それぞれの病棟にようやく慣れた頃だと思えますが、様々なキャリアを持ったスタッフですから、これから大いに力を発揮してくれることと期待しています。病棟にフレッシュマンが加わるということは新しい風が吹くことであり更に良いケアに向けて改善できる機会であると思っております。至らない事もありますが、お気づきの事やご要望等ございましたら、お気軽にご意見をお寄せ下さい。

今後も、地域に根ざした病院を目指して努力を重ねて参りますのでご支援を頂きますようお願い申し上げます。

第三者評価委員会のご紹介



事務局長 菅沼 幹康

第三者評価委員制度は、平成20年4月に発足し、4名の外部委員に定期的な評価を実施していただくことで、病院運営の透明性が高められたり、医療、ケアの質の向上が図られたりと多大な成果を上げてきております。

本年は、委員の異動があり、当初より4年間ご尽力いただきました和田稲子先生（東京YWCAケアサポート板橋所長）が退任し、新たに國光登志子先生（立正大学大学院講師）をお迎えする運びとなりましたのでお知らせいたします。大塚眞理子先生（埼玉県立大学教授）、柑本美和先生（東海大学大学院准教授）、堂園俊彦先生（静岡大学准教授）には、引き続き大所高所からご指導を頂きます。

〈主な活動内容〉

1. 原則3ヶ月に1回2時間程度、和光病院内視察をする。
2. 視察結果を報告書にまとめ、院長に提出する。
3. 毎年1回年度末に病院管理職との合同会議を開催する。
4. 運営上重大な問題が発生した場合、これについての協議に参加する。

認知症看護認定看護師として、 今、思うこと



教育師長 石川 容子

わが国の高齢化に伴い、認知症の人は急速に増加するといわれています。これに対して、認知症に対する教育や人材育成が急務となっています。看護の分野では、資格認定制度が発足されており、その中で老人看護専門看護師、認知症看護認定看護師という資格を有する看護師がいます。私は、2006年に認知症看護認定看護師の資格を取得しました。当初は、全国で10名でしたが、現在、178名となり病院、施設、在宅などのさまざまな場所で、認知症の人により良い看護が提供できるように活動しています。

認知症看護認定看護師の役割は、認知症の経過と予後を理解したうえで、生命・生活の質や自己実現に対するケアの質やその病態に与える影響の深刻さを洞察し、認知症の発症から終末期に至る長期間のさまざまな看護上の問題に対して、そのご家族を含めた統合的な援助を実践することです。私の役割は、認知症の人とご家族の苦悩が少しでも緩和できるようにケアを向上させていくこと、認知症の正しい理解や認知症のケアの大切さを多くの人に伝えること、そして認知

症のケアに携わるスタッフが生き生きと働くことができるように支援することだと思っけています。当院のケアはどうでしょうか、スタッフは生き生きとしていますでしょうか、そして何よりも患者さんの人としての尊厳は保たれていますでしょうか。認知症のケアは、これで良いということはありません。ですから、常にこれでいいのだろうかと自問自答しながら、患者さんの一日一日を大切にしていきたいと思っています。

さて、認知症ケアの考え方は、この10年で大きく変化しました。以前は、介護を困難にさせる認知症の人のさまざまな言動は、「問題行動」と捉われ、如何にその行動を抑えるかということに焦点が当てられていました。最近では、そうした行動の原因に目を向ける、認知症の人の苦悩や不安、恐怖心をわかつてケアに変わってきました。そして、問題行動という言葉は、周辺症状や認知症の行動と心理症状（BPSD）という言葉に変わっています。また、イギリスのトム・キットウッドが、これからの認知症ケアのあるべき姿として「その人を中心としたケア（パーソン・センタード・ケア）」という言葉で表し、わが国でもケアの考え方として提唱されています。その他にも、さまざまな療法が確立されています。

しかし、それらは、認知症の人には、どのように感じ取られているのでしょうか

か他の病気の患者さんでしたら、ご意見やご要望を直接伺うことができそうですが、認知症の人の場合、かわる人たちが想像しなくてはなりません。もしかしたら私たちは良いと考えている事が、認知症の人にとっては迷惑なことかもしれないのです。自分がされて嫌な事をしないということとは当然ですが、自分がしてほしいと思うケアと認知症の人が求めているケアは同じではないのだから思います。それ以前にケアを求めてはいないのかもしれない。

私たちは、認知症を経験することはできません。わからないからこそ考え続けていきたいと思えます。そして、認知症看護認定看護師としての使命を果たすべく、スタッフとともに常に新たな発想を持ちながら進んでいきたいと思っています。

ご家族にとっても、ご心配なことやご要望がございましたら、いつでもお声をかけていただくと嬉しく思います。



認知症ケア学会に参加して



4階病棟看護主任 橋植 斉実

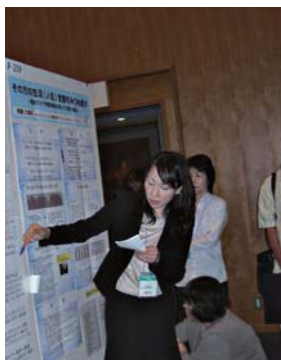
第13回日本認知症ケア学会が5月19日と20日の2日間、静岡県浜松市のアクトシティで開催されました。本学会はシンポジウムが8つ、講演が15以上もあり、参加者約3600名という大変大きな学会です。参加者は、医師、看護師、介護士だけでなく、福祉職や建築の方など幅が広いのが特徴的でした。また参加者の所属も、大学や総合病院といった大規模な施設から、グループホームや通所施設などまであらゆる場所でした。認知症のケアがあらゆる分野の知識や技術をもとに考えられ、そして様々な場所で行われていることに改めて気づかされました。

今回はそこでポスター発表をしてきました。発表したのは、認知症患者さんの死の看取りについての内容です。これは世間一般での認知症への関心の高まりに合わせて、最近注目を集めているテーマでもあります。たくさんの方が集まってくださりとても緊張しましたが、なんとか10分間の発表を終えることができました。発表の後は意見や質問が多数寄せられ、自分では気づいていなかったことに

気づき、また違う視点で考えてみる機会となり、大変貴重な体験になりました。

そして同じようなことに興味や関心を持つている方がいることを知りうれしく思ったのと同時に、参加している皆さんの熱心な姿を見て、自分も頑張らなくてはいけないなど気持ちを新たにしました。

学会には毎回テーマがあり、今回のテーマは「認知症ケアの理念を実践へ」というものでした。学会に参加して数々の発表や講演・シンポジウムから多くの学びを得ることが出来ましたが、それだけでは不十分です。それらを日々の患者さんのケアに生かすことが必要で、実際にはそれがとても難しい点であると感じています。しかしそこには近道や簡単な道はないというのが学会の中でも共通した見解でした。私も学会で得た知識や経験を生かしながら、小さなことから一つずつ丁寧なケアを積み重ねていきたいと思いました。



縁日のご案内

平成24年7月25日（水曜日）

- 6階病棟 13時10分～13時30分
- 5階病棟 13時30分～13時50分
- 4階病棟 13時50分～14時10分
- 3階病棟 14時10分～14時30分
- 2階病棟 14時30分～14時50分

会場／7階多目的ホール

内容／かき氷、綿あめ、金魚すくい
宜しければご家族の皆様もご参加下さい

第6回和光病院公開講座開催

「認知症の理解とケア」

講師／都立松沢病院院長

前和光病院院長 斎藤 正彦

平成24年9月6日（木曜日）

14時～16時（13時30分開場）

会場／成増アクトホール

（板橋区立成増地域センター）

東武東上線成増駅北口徒歩1分

お申込／不要

参加費／無料

定員／470名

（会場には駐車場はございません。）

公共の交通機関をご利用ください。

お問い合わせ／

和光病院 048（450）3311

第6回家族懇談会を開催



顧問 齋藤 正彦

おかげさまで平成23年度の当院の経営指標は、順調に推移いたしました。病院のサービスは、人手を増やすほど充実することは事実なのですが、当院の職員数は、ほぼすべての職種で法定の人数を上回っており、これ以上の増員は、経営上困難です。今後は、現在の職員のレベルアップを図ることでサービス向上に努めてまいります。

最近、しばしば報道される入院医療費削減を目的とした診療報酬改定は、当院の経営に大きな影響を与えます。しかしながら、私どもは、今後も、「発症から看取りまで」という看板を下げることなく、長期入院を制限しない方針で経営を継続できる見通しを立てております。安心してお任せいただきたいと思えます。

さて、私の退任に関連して、様々なご心配、ご不便をおかけいたします事、大変申し訳なく存じます。皆様のご支援なくしてサービスは成り立ちません。今後とも、翠会和光病院に、変わらぬご厚情を賜りますよう、切にお願い申し上げます。お別れのご挨拶とさせていただきます。

ご家族の皆様とともに



相談室長 栗原 眞須美

6月16日(土)第6回和光病院家族懇談会を開催致しました。当日は梅雨らしい小雨の一日でしたが、午前の部には主に2階、6階にご入院中のご家族34名、午後の部には主に3階、4階、5階にご入院中のご家族37名、合計71名の方々がご出席くださり、職員も午前17名、午後22名が出席致しました。足元の悪い中、ご多忙中にも関わらずご来院いただきましたご家族の皆様には心より御礼申し上げます。

この会は、ご入院中の患者さんのご家族に病院の現状や医療情勢など有りのままにお話させていただき、皆様から忌憚のないご意見を頂戴し、相互に理解を深め、患者さんにとってより良い治療・療養環境を創っていくことを目的としています。

今回の内容としては、挨拶、職員の自己紹介につづき、前院長の齋藤顧問から診療報酬改定や病院の収支の変化、職員数や患者さんの数、当院における病棟治療、治療薬や非薬物的対応について、さらに、ご家族とともにかかえる認知症の

方の合併症医療や終末期医療に関しての現状と課題など多岐にわたりお話をさせていただきました。

またご家族からは、診断や治療方法、予後に関する質問もあり、大変有意義な時間となりました。

ご協力いただいたアンケートには、あの言葉と共に「病院が近く感じられ安心しました」「オープンな話に敬服しました」「この会は大事です、続けてください」「患者に起こる状況から逃げず、家族で話し合おうと思えました」等々のたくさんのお意見を寄せて頂きました。職員にとつても、更なる努力へのエネルギーとなりました。ありがとうございました。

尚、当院ではご家族の皆様とテーマを設けての勉強会「家族教室」や「家族のつどい」も行ってまいります。

年度始めに皆様にご案内させていただきましたが、都度、院内に詳細を掲示しております。こちらにも是非お出かけくださいませ。お待ちしております。



イチゴ狩り

2階病棟 介護 中村 貴子



5月中旬〜下旬にかけて各病棟でイチゴ狩りを実施しました。天気が良くそよそよと風も吹き気持ちのよい日でした。患者さん達とイチゴ畑まで歩いて到着。患者さんから「まあ！赤いイチゴがこんなにたくさんなってるわ」と大喜びする声が聞かれました。目をキラキラさせてイチゴ狩りがスタート。イチゴの甘酸っぱい、いい香りが漂う中、楽しい会話をしながら一所懸命にイチゴをつんでくださいました。お家が農家だった方は、とても慣れた手つきで生き生きと上手なもぎ方を教えてくださいました。

獲れたイチゴは、おやつの時間にいただきます。半分はそのままいただき、もう半分は栄養科でフレッシュジュースにしてもらい、嚥下や歯の悪い方も全員がイチゴのおいしさを楽しめるようにしました。

また、イチゴの季節になったら、皆さんと一緒にイチゴ狩りに行きたいです。



お花クラブ

アクティビティー委員会 板橋 浩二



5月、生け花を行う、「お花クラブ」を開催しました。生け花を行うことに没頭される方もいれば、季節の生花を観賞される方、生け花を介して患者さん同士で賞賛し合ったり、スタッフと談笑をされる方など、多くの笑顔と和やかな雰囲気のある時間となりました。

この「お花クラブ」は6月も開催を予定しています。

アクティビティー委員会では、今後も患者さんが楽しめる催し物を開催していきます。かき氷を提供したり、もちつき大会といった季節感のあるイベントも計画しています。

開催が近くなりましたら、1階の掲示板やエレベーターにポスターを掲示しますので、ご家族の皆様もどうぞお越しください。



ハワイアンコンサート

顧問 白濱 龍興



当院には職員により構成された、ハワイアンバンドがございます。名前は「ワコー・ブルー・マリーナ」。バンドを結成してほぼ5年半がたちました。私達はほぼ月に1回の割合で各病棟を回りコンサートを開いております。

当初、6階病棟の看護師2人（ピアノ・ギター）と私（スチールギター）の3人でスタートしました。そのような関係で第1回目は6階病棟での演奏をおこないました。その後ウクレレが加わり、さらにベースとフラも入り、2人の歌姫も歌を披露し、患者さんと一緒に楽しんでおります。そして第55回目のコンサートを7月13日金曜日14時から2階病棟で行う予定です。今後ともワコー・ブルー・マリーナを可愛がってください。



診療の流れ

外来受診及び入院相談、病棟見学を希望される方は医療福祉相談室048-450-3311(代)へご連絡ください。相談員がお話を伺いご予約をお受けします。

【受付時間】

月曜日 ~ 土曜日 9:00-16:00

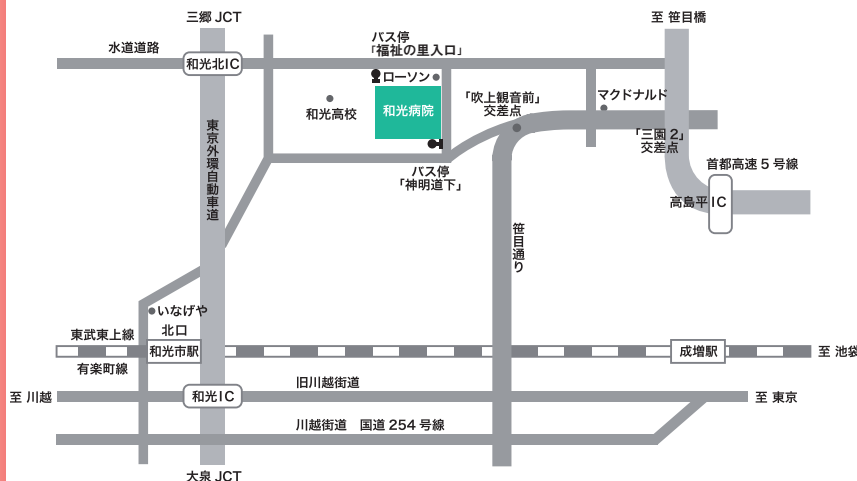
外来診察日・担当医

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-------------------|-------|------|----------------|-------|-------|
| 午前診療(09:30-12:00) | — | 岡村 毅 | 帖佐 隆 ※宮永 和夫 | 秋元 和美 | 松崎 尊信 |
| 午後診療(13:30-16:00) | 井藤 佳恵 | 岡村 毅 | 帖佐 隆 | 秋元 和美 | 松崎 尊信 |

※完全予約制となっています。

※宮永医師の外来は毎月第二水曜日午前のみ

交通のご案内



東武東上線、有楽町線、副都心線「和光市駅」北口より東武バス(和光高校循環)にて約10分、「神明道下」下車徒歩3分又は「福祉の里入口」下車徒歩3分。

東武バス時刻表

「和光市駅北口発 和光高校循環」

| 時 | 月~金曜日 | | | | | 時 | 土曜・日曜・祝日 | | | |
|----|-------|-----|-----|-----|-----|----|----------|-----|-----|--------|
| 8 | 7 | 17 | 27 | 40 | 50 | 8 | 14 | 30 | 45 | |
| 9 | 2 | 13 | 30 | 33※ | 55 | 9 | 13 | 30 | 44 | 55※ |
| 10 | 20 | 40 | 55 | 56※ | | 10 | 0 | 15 | 28 | 43 |
| 11 | 10 | 24 | 40 | 55 | | 11 | 0 | 14 | 17※ | 28 48 |
| 12 | 10 | 31 | 47 | | | 12 | 15 | 32 | 47 | |
| 13 | 12 | 30 | 32※ | 47 | | 13 | 2 | 17 | 32 | 46※ 47 |
| 14 | 2 | 17 | 32 | 47 | | 14 | 2 | 17 | 32 | 47 |
| 15 | 2 | 17 | 31 | 40 | | 15 | 2 | 17 | 32 | 47 |
| 16 | 1 | 18 | 35 | 48 | 54※ | 16 | 2 | 17 | 33 | 46 |
| 17 | 4 | 19 | 40 | 55 | | 17 | 3 | 19 | 31※ | 34 50 |
| 18 | 14 | 23※ | 28 | 38 | 48 | 18 | 11 | 27 | 42 | 57 |
| 19 | 2 | 18 | 30 | 43※ | 46 | 19 | 11 | 30※ | 35 | 57 |
| 20 | 10 | 28 | 40 | 56 | | 20 | 19 | 42 | | |
| 21 | 11 | 18※ | 28 | 42 | 57 | 21 | 4 | 26 | 48 | |

(※は成増駅北口発、[§]は和光市駅南口③番発)

編集後記

顧問 白濱 龍興

暑中お見舞い申し上げます。
前院長斎藤先生が東京都立松沢病院にご栄転になり、新院長着任までの間浅見副院長が院長を代行しております。

浅見先生は、当院で最も長く勤務されている先生で、本号の挨拶でもお分かりのように勤勉かつ誠実、スタッフの間でも大変人気のある先生です。所信表明にもありますように斎藤先生の理念を受け継ぐ形で新院長着任までの大変な仕事を引き受けられました。患者さんやご家族および地域の方々のために職員一同一致団結するように気持ちを新たにしています。

本号は、学会参加報告や家族懇談会の記事を中心に、さらにアクティビティー委員会が病院全体で行っております活動状況等を紹介しました。

今後とも和光病院をよろしくお願いたします。

